

初期消火の3原則! 1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければ鍋やかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。



2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。

火元別初期消火のコツ

油鍋	電気製品	衣類
あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火する。	いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも下ろす)消火する。	着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。
浴室	石油ストーブ	カーテン・ふすま
浴室からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を閉め、徐々に戸を開けて一気に消火する。	真上から一気に水をかけて消火する。(斜めにかけると石油が飛び散って危険)石油が流れて広がっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火する。	カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。火元を天井から遠ざけ、その上で消火する。

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、すみやかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を断つ。
- 逃げる際は、ハンカチ等で口を覆い煙を吸わないようにする。



消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



消火器の構え方

- 風上に回り風上から消す。火事にはまともに正面から立ち向かわないようにする。
- やや腰を落として姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



自宅の火災予防

火災警報器の設置義務化

消防法に基づき、住宅用火災警報器の設置が義務づけられました。火災による死傷者をなくすためにも設置しましょう。

火災警報器の設置場所

寝室	階段
すべての寝室への設置が必要です。(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)	寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。

住宅内取付位置図



注意：住宅用火災警報器は電池式のもの主流です。電池の寿命は5年から10年といわれていますので、早めに交換しましょう。

ウイルス等の感染症が収束しない中でも、**災害時には危険な場所にいる人は避難することが原則**

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な行動をとりましょう。

知っておくべき 5 つのポイント

- 避難とは「難」を「避」けること**
自宅での安全確保が可能な人は、感染のリスクを負ってまで避難所に行く必要はありません。
- 避難先は学校・公民館だけではありません**
避難所が過密状態となることを防ぐため、**安全な場所に住む親戚・知人宅に避難することも検討**しましょう。
- マスク・消毒液・体温計が不足しています**
避難所の備蓄には限りがあるため、できるだけ**自ら携行**してください。(マスクがない場合にはタオル・ハンカチ等、消毒液はウェットティッシュでも代用できます)
- 避難所の変更・増設を確認**
本書発行後に情報が変わる可能性があります。あらかじめ**那珂川町ホームページ**等で**確認**してください。
- 豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です**
避難先への経路など**周囲の安全確認**を十分に行ってください。

避難先では感染症予防に努めましょう

- **避難所に入る前に**
感染の拡大を未然に防ぐことが非常に重要です。避難所に入る前に、発熱の有無など体調をチェックしましょう。
- **換気の実施**
可能な限り、定期的に換気を行いましょう。換気は季節を問わないので、寒暖差への防寒対策が必要です。
- **手洗い、うがいをこまめに**
食事前や、トイレなど共有部分に触れた後は、石けんと水で手洗いしましょう。水を十分に確保できない場合は、アルコール消毒液などで代用しましょう。
- **「3密」(密閉・密集・密接)の回避**
避難者同士2m程度の距離を保ちましょう。向かい合わせではなく背中合わせに座ったり、段ボールなどの間仕切りを利用すると、飛沫感染の予防になります。また食事時間をずらすなどして、密集・密接を避けましょう。
- **咳エチケットの徹底**
飛沫感染の予防のため、咳などが出ていなくても屋内ではマスクを着用しましょう。
- **日々の健康状態をチェック**
定期的に体温を測定し、体調の変化を感じた場合にはすぐに避難所のスタッフに相談しましょう。